

教育長就任にあたって

山梨県教育長に就任しました斉木邦彦です。私は教員で、昨日をもって定年退職しました。37年間の勤務でしたが、そのうち9年間は教育委員会事務局で過ごしましたので、教員としても行政職員としてもどちらも中途半端だったなあ、というのが正直なところです。それはともかく、定年まで勤め上げ、前々から3月31日は、家に帰って女房から久しぶりにやさしい言葉をかけてもらえると楽しみにしていました。しかし新年度も引き続き働くことになりましたので、女房からのねぎらいの言葉はもう少し先延ばしし、本日からまた新たな気持ちで任務にあたりたいと思います。よろしく願いいたします。

私は高校・世界史の教員です。教員といっても小中学校に勤務した経験はありません。高校での経験も自分の限られた範囲の経験にすぎません。これまでの行政出身の教育長さんの方が固定観念なく新鮮な視点で教育の本質をとらえていたのではないかと思います。教育長の仕事は学校現場の状況を踏まえながら事務局の各課の仕事をまとめていくことです。そこにおいては行政とか教員とかに関係なく、事務局の皆さんや学校の先生たちとともに歩んでいきたいと思えます。本日はせっかくの機会ですので、この場を借りて学校の先生たちへのメッセージを2点だけ述べさせていただきます。

教育基本法第一条は「教育は人格の完成を目指し・・・」という出だしで始まり、教育の目的について述べています。「人格の完成を目指す」というとき、何か完成した人格というものがあってそれを目指すのではなく、人格の完成に向けた毎日の努力の積み重ねが求められている、つまり日々の営みの重要性を示しているのだと考えます。努力そのものに大きな価値を置いているということです。

このように、目的を未来の何かに置いて、その未来に向かう過程としてのみ現在をとらえていると、現在はただ未来のためにだけあるかようになってしまいます。このことは実際に生きて生活している現在を貧しくしてしまいかねません。そして現在を貧しくすることは、やがて来る未来をも貧しくするのではないかと思います。ここは考え方の向きを逆転させて、今を充実させることが未来の充実につながるのだ、そう強く意識したいと思えます。

子供たちにとって今の充実とは、多くの時間を過ごす学校の生活の充実ということです。学校生活には意図しない学びがいっぱいあります。たとえば授業で先生が教科内容を扱うその扱い方、子供との何気ない接し方などのように、先生が教えようと意識しないことがかえって子供たちによく伝わります。学校では授業だけでなく生活全般を通じ子供たちはいつの間にかたくさんのことを学んでいる、そういう部分が大きく、先生方には是非大切にしてほしいと思えます。

次に、これも同じような話になりますが、もう一点申し上げます。学校の先生は、いつも子供たちからその背中を見られています。子供たちは先生の学校での行動のすべてを見、休日たまたま買い物をしている姿を見かける、ということもあります。見るとはなからこそ先生の背中が子供たちの無意識の世界に刷り込まれます。学校の先生は1日24時間、1年365日、教員として生きるしかないと思います。学校を離れても、良識ある大人、責任ある大人として生きる、ということ強く意識してほしいと思います。

学校の先生方に求めるばかりでなく、私の県教育長という立場も同様に、日常の全ての行動が問われていると思っています。私の背中を子供たちが見ることはきわめて少ないかもしれませんが、いつ見られてもいいように、誠実な生き方を心がけたいと思います。報道の皆様方におかれましては、私の振る舞いに問題があれば、遠慮なく指摘してください。

以上、先生方へのメッセージを2点だけ述べさせていただきました。教育というのは誰にとっても正しいこと、というのが難しく、こうすることが100%正しい、と言い切れない部分があります。バランスの大切さということかと思えます。

さきほど学校の生活の充実と申し上げましたが、あくまでも学校は授業が基本です。また先生の背中についても、子供に見せようとする意識が強すぎではいけません。あくまでも、さりげなく、自然体でなければならぬと思います。

さて現在、教育委員会の喫緊の課題は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応です。学校は新学期から教育活動を再開するための準備を進めておりますが、教育委員会としても日ごとに変わる状況を常に注視しながら対応してまいりたいと考えます。

臨時休校が続くことによる子供たちの不安、学習への懸念、保護者の負担など、様々な課題があります。そのことと感染拡大のおそれとの間で難しいバランスをとっていかなければなりません。

また、昨年度に引き続き、少人数教育の推進、ICT教育の推進などに重点的に取り組んで参ります。施策の立案や実施にあたっては、市川満前教育長が築き上げてこられたこれまでの成果を大切に受け継いでいきたいと思えます。これまでの議論を大切にするとともに、大事な視点は何か、外してはいけないポイントは何か、ということ常を忘れないよう心がけて参ります。

また、高等学校や特別支援教育においては、昨年度策定された「高等学校長期構想」や「特別支援教育推進プラン」に基づき、いよいよ必要な具体的施策を検討していく段階に入ります。課題はたくさんありますが、広く意見を伺いながら一つ一つじっくり着実に進めて参りたいと思えます。皆さん、どうぞよろしくお願いたします。